

1. 単元名 「生きる」 ～地域の防災・減災を通して～

はじめに

海洋教育では、「海に親しむことから学習を始め、海を知ることによって海への関心を高め、さらに海と人との共生のために、海を利用しながら海を守ることの大切さを学ぶ」を通して地域の課題を自分事として具体的な解決策を考え実践に結び付けるよう各学年特色ある学習活動を行っている。それらの4つの視点「海を親しむ・海を知る・海を守る・海を利用する」を軸に、新たに自助・共助の視点を取り入れ、海と陸、地域の課題を自分事として解決策を考え、他者との協働活動を通して、自ら意思決定や行動できるようにさせたい。

2. 単元の目標

○世界や日本、身近な自然災害での海への影響を知ることによって、減災・防災について理解を深め、教科の学習を実践に活用することができる。【知識・技能】

○海洋環境と生活様式に照らし合わせ考察することができ、課題に対して解決方法を多面的・多角的に考え、意見として他者に伝え発信することができる。【思考・判断・表現】

○将来に直面する災害等の啓発活動に対して友達と協力して、自助・共助自分の役割を果たそうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

(1) 教材観

この教材は、総合的な学習に時間と教科を関連させることによって、生徒が教科で学習したことが、実践につながるということを体感することで地域の実態を把握し課題を焦点化できる。また身近な海洋に関する課題や現状を知り、海洋教育を主体的・対話的で深い学びとして取り組ませることのできる単元である。この学習ではこれまでに学んできた知識に地域の協力者としての視点を加え学習のテーマである「生きる」について学ぶことでより深く考察する力ができるようになり、深い学びになると考える。生徒はどの視点で物事を捉えるか、どのように思考し行動に移すことができるかを考えていくことができる。そこに教科横断的な指導を行うことで生徒は様々な課題を多面的・多角的に捉え、主体的に考えることで他者に自分の考えを伝え他者の話を聞くことで物事を吟味し、自ら意思決定し自分のできることを見つけ、行動できる生徒の育成につながる教材である。

(2) 生徒観

生徒は地域とのつながりが強く、海とかかわる学習や地域行事に対して興味関心を持ち、多くの生徒が積極的に活動することができる。これまで生徒は「海を守る」「海を知る」について批判的に考える（家庭のごみはどこに行く）や未来を予測する（ふるさと100年計画）話し合いでの他者と協力する（調べたことまとめよう）ことをビーチクリーンを実施し、環境の課題から、海洋に関する課題や調べたいことをグループで学習し、発表会や共有を通して学習してきた。今年度学習前の調査では下記の結果となり、学習が学校だけにとどまっている。理由として、新型コロナウイルス感染防止の理由により、地域行事が中止や体験を通しての海洋と地域に関する課題を学ぶという機会が少なかった。また、経済活動が海の環境を大きく変えてしまうことに気づき、地球や日本の海洋資源の現状や課題への取り組みなどに関心を持つなど、自分事として解決しようとする意識はまだ希薄ともいえる。今年度は、防災・減災をテーマに体験・実践などを交え学習することで気づき得た課題を自分事として考え行動できる力を養いたい。

【学習前の調査結果】

①あなたは海の環境について学習しているまたは興味がある。

はい・・・92% いいえ・・・8%

②あなたは海洋教育をどこで学習していると思いますか。

学校・・・97% 家庭・・・0% 地域・・・3% やっていない・・・0%

(3) 指導観

日常的な事象の中には厳密には、既習の学習内容を基に、理想化したり単純化したりすることで未知の状況を予測したり、簡潔な形で把握し表現することが、有効的であると考え。これまでの指導は、ビーチクリーンなどの活動を通して、「海を知る」「海を守る」の視点での指導を中心に行ってきた。しかし、この学習が地域の中で生かされているという実感が少ない。今年度は、海洋教育の最終学年でもあることから、これまでの「海と人のつながり」を「地域と人・海とのつながり」に視野を広げ、生徒の地域参画を意識して、防災・減災を視野に入れ指導を行う。そうすることで、学習者主体の行動思考の学習になると考える。また生徒の既習の内容をつなげるため、指導法を工夫し、知識の習得と考察、体験・技能の活用を効果的に往還させる学習内容を設定した。学校では学ぶことのできない体感的・実感的な活動を行うことで、生徒の中に自助・共助の心を育て地域内外に参画することのできる自分の役割について考えさせたい。

4. ESDとの関連

(1) 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

【相互性】

海と人とのつながりを意識させ、海がこれまでの生活に重要な役割であったことを理解させと共に海との共生を考える。

【責任性】

自分の役割を踏まえた上で、自分の発言や行動に責任を持ち、物事に自主的・主体的に参加しようとする。

【連携性】

協働的作業を通して、共助の精神を体感することで地域に生きるものとして自分の役割について学び、知りえた知識や学習の結果を生かし地域に還元できる。

(2) 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

【他者と協力する態度】

話し合い意見を広げ、アクションを起こすためには協力して行動する等、それぞれの役割分担などが必要になることを気づく。

【つながりを尊重する態度】

災害が起きたとき、避難所などで中学生の自分たちができることは何があるかなどを具体的に考え地域の中での自分の役割について考え行動できる力の育成。

【多面的、総合的に考える力】(systems thinking)

防災や減災、復旧、復興というものに対して、協力という力は、海であろうが市街地であろうが、はどの状況下においても必要な力であるそれらを多面的に見ること行動できること。

【長期的思考力】

糸満のよさを知り、1つ先の糸満市の姿を考えていく事が大切である。地域を活性化させながらも、万が一の時の協力性を養うための他者との共生、自然との共生を考えること。

(3) 本学習で変容を促すESDの価値観

【自然環境や生態系保全】

大雨や市街地の冠水などは地球環境のバランスや生活環境が影響していること、過去に糸満ではどのような災害があったのかを知り街から流れ出る海洋ごみが地場産業である海の環境を悪化させることに気づき海やその他の自然環境とどのように共生していくのかを考える。

【世代間の公正】

先祖代々の技術や地域行事を守りながら、身近な地域に自分のできる役割を考え、行動を起こすこと。

【世代内の公正】

人は話し合いや考えを共有することで、同じ目的に向かって、自分にできることや弱い立場の人のことも考えつつ行動できるようになること。

(4) 達成が期待されるSDGs

- 11 持続可能な都市・まちづくり
- 12 つくる責任・つかう責任
- 13 気候変動
- 14 海洋資源・海の豊かさ
- 17 グローバルパートナーシップ

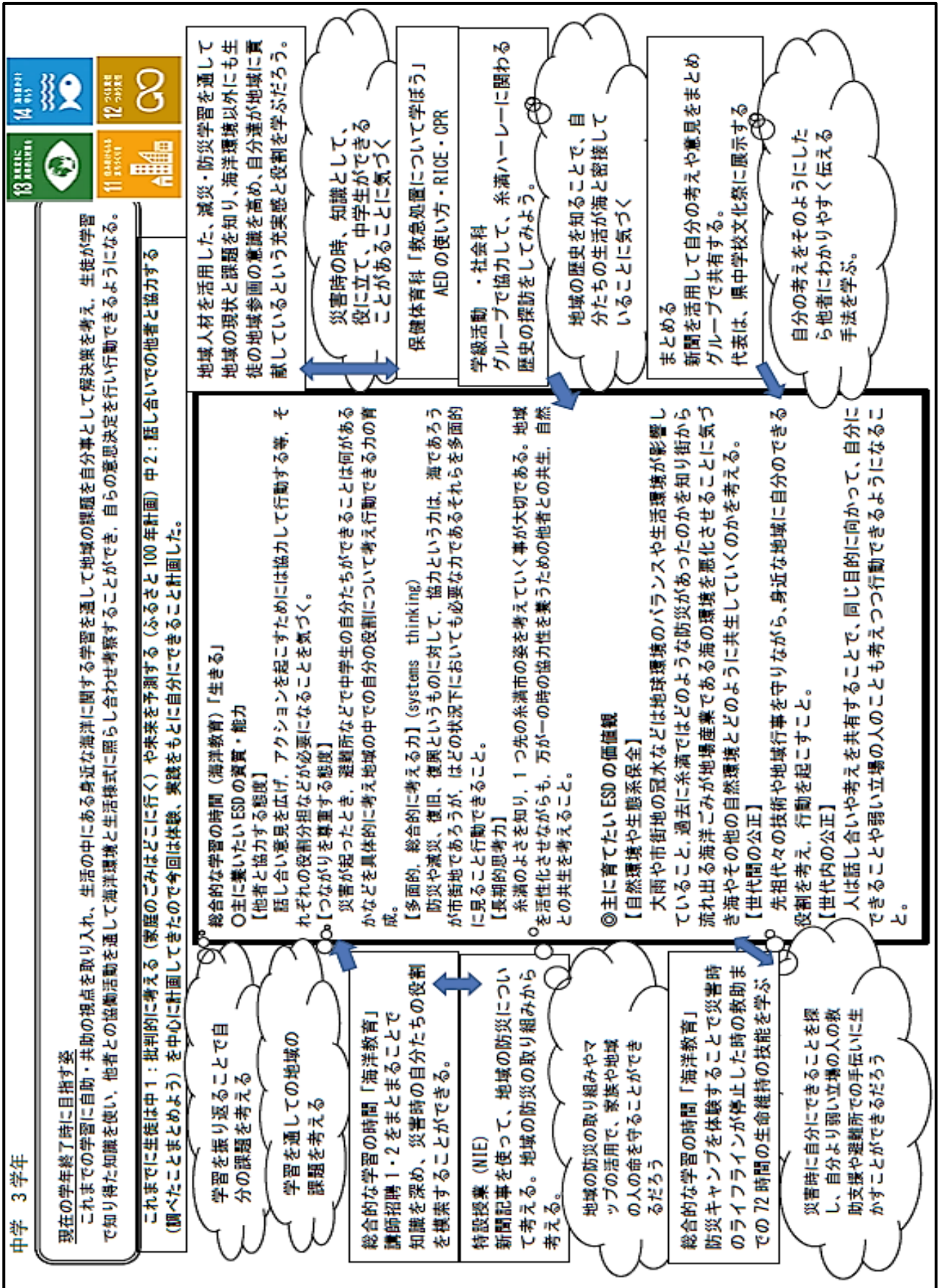


5. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①各地の防災への取り組みや糸満市の防災の内容(取り組み)を知り知識を深めることができる。 ②自然災害が起こったら、既習の知識を使い行動する技術を習得することができる。 ③調べたことを図・式グラフなどを用いてまとめる技能を身に付けている。	①自然災害についての対策を自分の考えや解決策を考え伝えることができる。 ②多くの情報を精選し、糸満市の実態や課題を多面的・多角的に考察し、まとめることができる。 ③身近な災害が海洋環境にどう影響をするかを調べ他者に伝えられるようにまとめることができる。	①課題解決に向け、他者と協力して課題解決に向けて自分が出来ることを考え行動している。 ②主体的に何を活用すればより適切な発信につながるかを考えようとしている。 ③他者からの意見を取り入れ次の課題発見や解決に向けて模索しようとしている。

6. 単元の指導計画 (全16時間)

次	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1	これまでの海洋教育を振り返り、今年度の海洋教育についての概要を説明する。 グループ編成アンケート	これまでの学習の様子(スライド)。 新聞記事・防災キャンプ資料	ア①
2	外部講師招聘1	外部指導者との連絡調整	ア②
3	「生きる」【講演会】 限られたもので救助しよう【体験】	日常にあるものを準備 災害救助車の見学	ウ①
4	外部講師招聘2	外部講師との連絡調整	イ①
5	「大規模震災から学ぶ」 東日本大震災から学ぶ減災・防災【講演会・ワークショップ】	ネットワークの開設・リモートでの講演会 ワークショップの資料の配布	ウ②
	保健体育【保健】 学活・社会【地域・社会見学】 聖地巡礼ウォークラリー	(別単位1)保健体育 AEDの活用 心肺蘇生人形の準備 (別単位4)学校行事(学活・社会) ワークシートを活用 グループで協力して、糸満ハーレーに関わる歴史の探訪をしてみよう	効果の視点での評価を行う
6	まとめ①	これまでの学びを通してなにが大切だと知りましたか	ア③
7	防災新聞作り		イ③
8	新聞報告会	地域の災害マップ	イ②
9	糸満市の減災・防災について学ぼう【グループ討議】	新聞記事・スライド・ワークシート	ウ③
10	外部講師招聘3	外部指導者との連絡調整	ア②
～	「海洋体験」	教材の準備	ウ①
15	防災キャンプ【体験学習】	保険の契約	
16	これまでの学びをまとめよう 次の総合的な学習の時間(進路)オリエンテーション	A3判 新聞ワークシート タブレットの活用	自己振り返りシート



8. 考察

- ①みなさんは災害時に役立つ技能が身についていますか。
- ②みなさんは自然災害における防災や減災について理解していますか。
については学習前と学習後では学習後が2倍に増えていた。
- ③みなさんはこの標識は何のマークですか。



に関して学習前には、全問正解の生徒はいなかった。学習後に自宅近くに避難所があることや地域のどこに標識があることを報告したり話したりする生徒や教師が増えた。

- ④防災マップは家にありますかに関してはあるが80%を超えていた。1学期に配布した地図を家に保管しているが見てはならないように感じた。
- ⑤糸満市の災害避難場所はいくつあるか。に関しては正答を答えた生徒は0だったが、防災場所の数を知ったことで後日この
- ⑥過去に糸満市で大きな地震が起きたことがあるかに関してはあったことを忘れていた生徒が多かった防災については定期的に行う必要があると感じた。
- ⑦糸満中学校は市の緊急指定避難場所であるの関しては半数が知っていたが収容人数は分からなかった。学習後生徒の感想には、こんなに多くの避難場所や避難収容ができることに驚いていた。単元を通して生徒は、実際に災害が起きた時にはどのように行動することが大切か、また自分の役割を考えている生徒が増え、家族と避難所の確認をする。という感想が多かった。その結果、本校での防災訓練では、真剣に避難する生徒の姿が増え、避難完了時間が昨年よりは1分以上短くなり、また避難する際にけがをした仲間には声掛けなどをして解除している姿が見られた。

9. 成果と課題

成果

- ① 3年間の海洋教育を通して生徒は環境や海の現状を知り知識を広げ、防災という学習を通して家族や地域とのつながりを学んでいた。
- ② 防災・減災を通して家族のきずなや地域にできることを自分事として考えることができた。身近な海洋との暮らしや海との共生の在り方を考え、自分たちが行動を起こすことが大切であることに気づくことができた。
- ③ 生徒、職員がESDを意識した取り組みの中で地域の歴史や文化を知り、伝承すること。更に産業、自然についても自分事として考えるきっかけになった。

課題

- ① 教科と総合の時間を往還させ、生徒の活動を学びや問いにつなげる工夫改善が必要。
- ② 生徒が主体的に考え行動ができるよう、ESDの視点での支援協力を考える。
- ③ 単元構想で、学びの後の生徒のゴールの姿を考え、共通理解し教科横断等の授業改善を行う。
- ④ 防災キャンプが、天候上実施できず残念である。実施でき体験をしていたらもう少し生徒の行動に変容が見られたと考える。

【参考資料】

- ・ 中学校学習指導要領 総則 (平成二十九年度告示)
- ・ 中学校学習指導要領 解説 数学編 (平成二十九年度告示)
- ・ 2019年度 2021年度 ESDティーチャープログラム (沖縄会場) 資料
- ・ Ocean Newsletter 2022 発刊資料
- ・ 『TACを知る!!』 未来の漁業のために 一般財団法人 漁業情報サービスセンター 水産庁
- ・ (株)琉球新報 キジサガス
- ・ (株)沖縄タイムス社 新聞記事
- ・ 『FACT FLNESS』 ハンズ・ロスリング オーラ・ロスリング アンナ・ロスリング ロンランド 著 日経BP